

## 普及活動情勢報告（平成28年10月分）

中央東農業振興センター農業改良普及課

### トルコギキョウ切り花生産の省力化のために定植機の実演



定植実演中

トルコギキョウ切り花生産の省力化のため、9月23日にJA土佐香美野市支所花き部会の生産農家のほ場で、定植機の実演にあわせて現地検討会を開催し、定植機に関心のある生産者9名と、JA、振興センター、花き専技、農業大学校等が参加しました。

実際に機械を動かしてみて、参加者からは「しゃがまないのしんどくない。苗を選んで入れていくので、良い苗を揃えて植えられる。」等の意見が出されました。

農業改良普及課からは他の定植機の事例等も示して、機器導入について参加者と検討しました。

農業改良普及課は、今後もトルコギキョウの産地維持に向けた取り組みを支援していきます。

### 直販所やすらぎ市「キッチンマーメイド」のブランド化に向けてチーム会を開催



ギフトセットについて意見交換

10月13日、香南市夜須町直販所やすらぎ市の加工施設「キッチンマーメイド」で、今年3回目の6次産業化支援チーム会を開催し、関係機関を含む12名が出席しました。

農業改良普及課では、チーム員の意見をもとに、「徹底的に地元産の食材にこだわる」こと等のコンセプト案を提示して、キッチンマーメイドのブランド化を進めています。

今回は、土産用のニーズにこたえるため、ギフトセットについて箱入りの他、持ち帰りやすい袋入りを作って検討しました。「生姜チップスの代わりに、季節毎のジャムなど商品を変えては」「生産者の情報をカードに書いて入れては」「ショップカードも入れたら良い」などの意見が出されました。

農業改良普及課は、今後、アドバイザーの協力を得て、ショップカード等情報発信ツールの作成や、地元食材使用率を高めた商品づくりを支援します。

### 担い手育成センターで提案書のPRを実施



提案書の説明を聞く参加者

9月29日、担い手育成センターにて研修生10名を対象に、研修後の農家研修先、就農に向けた具体的なイメージにつながるように産地提案書を紹介しました。研修生からは、提案書に記載されている要件で年齢幅について質問があるなど、自身に置き換えて検討する姿勢が伺えました。

農業改良普及課は、今後も関係機関と連携及び役割分担しながら、新たな担い手の確保・育成に向けて支援していきます。

## 研究会活動の更なる活性化に向けて ～南国市施設園芸環境制御技術研究会通常総会～



南国市施設園芸環境制御技術研究会通常総会より

9月21日、J A南国市経済事業本部で、南国市施設園芸環境制御技術研究会は通常総会を開き、会員16名、関係機関8名が参加しました。農業改良普及課は南国市3J Aと連携して、会の運営や資料の作成等を支援しました。

予算計画では、炭酸ガス発生機、かん水システムなどの導入が進み、平成28年度の事業費は前年対比の4.1倍の見込みとなりました。また、活動計画では、技術習得のために講演会、視察研修、現地検討会等(年13回)を予定しています。会長は、「事業を活かすために、皆さんと一っしょに勉強をして、実績を上げていきたい」と抱負を語りました。

農業改良普及課は、今年度も研究会活動の活性化に向けて支援します。

## 先進地から学ぼう！！ほ場整備で次世代へ農地を託す(第2回南国市集落営農塾)



組織の状況等の話を聞いている様子



ほ整備後の現地視察

9月27日に第2回目の南国市集落営農塾として、愛媛県の(農)加茂ファームと(農)吉田を視察し、関係機関を含めて22名が参加しました。

両者とも1集落1農場型のほ場整備を実施又は実施予定の法人で、設立の経過、運営体制、営農状況等について話を聞き、現地を見学しました。

帰りのバス内で参加者から「米に依存しない農地の利用や経営手法、ほ場整備の合意に向けた対応方法など大変参考になった」等の意見が出されました。

農業改良普及課は、引き続き南国市など関係機関と協力して、ほ場整備後の新たな担い手となるように、組織化に向けて支援していきます。

## ニラの産地パワーアップ事業説明会



事業説明を聞く参加者

9月30日、J A土佐香美本所において、香南市のニラ農家を対象に産地パワーアップ事業追加募集と平成29年度要望に向けた説明会を行いました。参加した7名の農家からは、「施設整備は、事業費や面積等の制限があるか」、「そぐり機の防音対策はどのようにしたら良いか」、「機械のリース料はいくらか」等の質問がありました。

これらに対し、農業改良普及課やJ Aから、事業要件やそぐり機の使用事例、先行している事業の実施状況等を説明し、参加者の理解を促しました。

農業改良普及課は、今後もニラ産地の生産力アップに向けた取り組みを支援します。

### 最後に徹底！腐敗果対策 ～黄玉ユズ出荷検討会で対策講習を実施～



説明を熱心に聞く生産者

10月20日、JA土佐香美柚子生産部会は黄玉ユズ出荷検討会で、講習会を開催し、生産者約100名が参加しました。

今年は9月以降に降雨が多いので昨年以上に腐敗果の発生が懸念され、農業改良普及課は、JAと連携して講習会や文書による注意を続けてきました。今回は、収穫前の殺菌剤の散布について最後の周知をしました。

生産者からは、薬剤散布時期や貯蔵庫の温湿度について等、積極的な質問が出ました。

今後も農業改良普及課では、出荷検討会に参加できなかった生産者等に対して、腐敗果対策を周知し、高品質な生果ユズ生産を支援します。

### 環境制御技術を正しく理解して現場に活かそう ～中央東地区環境制御技術講演会～



中央東地区環境制御技術講演会から

10月13日、JA南国市経済事業本部で、農業改良普及課は、南国市施設園芸環境制御技術研究会と南国市3JAとの共催で、中央東地区環境制御技術講演会を開催し、生産者22名を含む56名が参加しました。

講演会では、講師の九州大学安武大輔准教授から、光合成と転流、根の養水分吸収などの植物生理や、イチゴを事例とした研究について説明がありました。生産者からは、「光や炭酸ガスの必要性」、「摘葉と光環境」、「梨地フィルム」、「炭酸ガスの設定濃度」、「風の影響について」などの質問や意見が出され、理解を深めました。

農業改良普及課は、会員の増収及び品質向上のために、研究会活動を支援していきます。

### ハウスミカンの安定生産に向けた早期型加温現地研修会開催支援



現地研修会の様子

10月7日、JA土佐香美果樹センター及び現地ほ場で、JA土佐香美温室みかん部会極早生早期加温タイプの生産者を対象とした現地研修会が開催され、8人の生産者が参加しました。現地では、平成29年産のトップ出荷となる園地の現在の結果母枝の状態や、樹相等について参加者で確認しました。室内研修では、農業改良普及課から現在の気象状況と花芽分化への影響を説明しました。

今秋は近年に例がないほどの高温多雨で推移し、ハウスミカンの花芽分化には悪条件が重なっており、今まで以上の慎重な加温開始に努めるよう確認し合いました。

農業改良普及課は今後もJAと連携し、結果母枝の養分分析やフラワーボックスによる花芽分化の確認等安定した加温開始が出来、生産安定が出来るよう生産者を支援していきます。

